

NO	意見の分類	意見の要旨	対応
1	インターチェンジの配置について	<ul style="list-style-type: none"> 「直結案」では、前回提示された案と比較して、サービスエリアのような利用ができる良い案に改善されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅前面の県道泊陸奥横浜停車場線に接続する「直結案」に決定し、今後の詳細設計を進める。
2-1	道の駅における取組について	<p>(レストラン)</p> <ul style="list-style-type: none"> レストランで町民による利用を促進するためには、季節ごとのメニューづくり等の工夫が必要でないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策①観光企画の強化」、及び「施策②買物や休憩、憩いで賑わう空間づくり」の事業に、『レストランの魅力アップ』を追加した。
2-2	//	<p>(直売所)</p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜コーナーを運営する立場で最も課題なのは、生産者の高齢化、産業の停滞。辞めていく会員や出荷しない会員が増加しており、会員を増やす施策が求められていると感じる。 野菜は12時には売り切れてしまうため、出荷するときに余った野菜を保管して、補充する等の施策も考えられる。 高齢者が道の駅まで出荷できないことも問題と感じており、対応策を考えなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策④直売所の充実（地産地消）」の事業『集荷サービスの提供』において、在庫情報提供や集荷サービス等の記載を拡充した。

第2回委員会での意見への対応について

NO	意見の分類	意見の要旨	対応
3-1	災害時の対応について	<ul style="list-style-type: none"> 災害時の対応については、<u>県が主導で行うべき</u>でないか。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>町内で災害が発生した際は町が対応</u>することが基本となるが、<u>広域的な対応が必要な場合には県が総合調整</u>を行う。 災害時には町と県で情報共有を図り、連携して対応していく。
3-2	〃	<ul style="list-style-type: none"> 災害時には、道の駅エリアを自衛隊の前進活動拠点にしたいと考えているが、<u>災害対策要員として町の総務課からの職員派遣が必要</u>となると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策⑦災害時の受け入れ体制づくり（連絡体制等の構築）」において、災害時の連絡・調整体制の中に<u>大規模災害時の人員派遣を追加</u>した。
3-3	〃	<ul style="list-style-type: none"> 避難者の移送が必要となった場合などには、現地で必要な支援等を確認・調整できる体制を整えなければならないことから、<u>関係機関が道の駅エリアに集まる</u>ことを考えていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策⑦災害時の受け入れ体制づくり（連絡体制等の構築）」において、<u>道の駅エリアの現地対策室を追加</u>した。
3-4	〃	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時には広域的な対応として各自治体や自衛隊等の連携が必要であり、<u>道の駅に付加すべき防災機能についても関係機関における協議</u>が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画は、<u>休憩施設として拡張する道の駅を防災拠点として最大限に活用するもの</u>。 結果として、下北半島縦貫道路の道路利用者が一時避難できるスペースを確保。 より広域的な大規模災害については、上位の防災計画での位置づけが必要。

第2回委員会での意見への対応について

NO	意見の分類	意見の要旨	対応
3-5	災害時の対応について	<ul style="list-style-type: none"> 激甚災害を想定し、連絡網には<u>国の機関も入れておく</u>ことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策⑦災害時の受け入れ体制づくり（連絡体制等の構築）」において、災害時の連絡・調整体制のなかの<u>関係機関を拡充</u>した。
3-6	〃	<ul style="list-style-type: none"> <u>災害ボランティアの受け入れ</u>についても検討が必要でないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅エリアでは、町や社会福祉協議会からの要請に応じて、ボランティアの受付・調整等のための場所の提供を行うなど、支援は可能。
4-1	観光に関する取組について	<ul style="list-style-type: none"> 下北半島の一体的な観光に関する取組を推進するために、新たに立ち上げを検討している<u>協議会と下北観光協議会の連携が有効</u>である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策①観光企画の強化」において、下北観光協会との連携事業を掲載。（ぐるりん下北観光バスのルート提案等）
4-2	〃	<ul style="list-style-type: none"> <u>インバウンド（訪日外国人）に対するPR</u>についても、いずれかの施策のなかに取り込んでもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策①観光企画の強化」の事業に『<u>受け入れ体制の充実</u>』を追加した（<u>接客研修やポータブル通訳機器の導入</u>）。
5-1	三保野公園の活用について	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅と一体となった三保野公園の活用について、<u>体験型防災訓練の場等としての活用</u>が考えられるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「施策⑧防災訓練やPR活動を通じた防災意識の醸成」において、<u>公園を含む道の駅エリアを活用した防災訓練の実施</u>を掲載している。

第2回委員会での意見への対応について

NO	意見の分類	意見の要旨	対応
5-2	三保野公園の活用について	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のスポーツでは現在グラウンドゴルフが最も人気で、来年度からは国体種目になる。<u>三保野公園にグラウンドゴルフのコース</u>を設置できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 三保野公園の拡張は、町の総合振興計画には含まれていないが、<u>今後、必要に応じて検討</u>。
6	事業主体となる立場で施策を検討する組織(協議会)について	<ul style="list-style-type: none"> ソフト施策の運営には様々な関係団体が関与しているため、<u>協議会の立ち上げが必須</u>。 どこにでもありそうな協議会ではなく、<u>道の駅が生き残るために必要な会</u>として位置づけ、取り組んでいく必要がある。また、<u>有識者や学生等の外部も取り入れる</u>べき。 町の将来像に関する議論も必要であるため、協議会メンバーには、<u>若者、女性、場合によっては移住者等を入れて</u>取り組んでいただきたい。 10年後、20年後を見据え、どうしたら横浜町が元気な町でいれるのか、何が重要なのかを考えて、構成員の検討をしていただきたい。 ソフト施策に連動して、<u>ハード計画を修正・調整できる場</u>を設けていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフト施策の推進体制として、<u>道の駅、利用団体、町関係者、及び国・町・県で構成する協議会の設置</u>について、基本計画に掲載。 協議会では<u>有識者や専門家、若者、女性など幅広い層</u>から意見を頂いたり、参画してもらう場とする。 協議会からソフト施策を実施するために必要なハード面での提案があった場合には、<u>施設管理者が行う施設整備に適宜反映</u>していく。
7-1	今後の取組について	<ul style="list-style-type: none"> 自立した安定財源確保のため、<u>自前のエネルギー確保</u>を行っている事例もあるので、そういったチャンネルも残しておいたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>実施の可能性について施設の詳細設計段階で検討</u>する。
7-2	〃	<ul style="list-style-type: none"> まち・ひと・しごと創生本部のRESAS（地域経済分析システム）では、それなりの人口流入もあることがわかることから、<u>移住者（Iターン、Uターン）の実態把握、協力</u>も必要でないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 町から移住者の実態について情報提供してもらいながら、<u>協議会において移住者の方の意見や参画の場</u>を設ける。